

第2章

市民の健康状況

第1節 保健統計からみた市民の健康

(1) 人口と年齢構成の推移

秋田市の人口は、2002（平成14）年をピークに減少に転じ、2005（平成17）年1月の市町合併により一旦増加したものの、減少傾向が続いています。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、生産年齢人口は、戦後増加を続けましたが、2005（平成17）年以降は減少に転じています。年少人口は、減少傾向が続き、1997（平成9）年には老年人口を下回りました。老年人口は、増加が続き、2040（令和22）年には、65歳以上の高齢者一人を生産年齢人口1.1人で支えると見込まれています。【秋田市人口ビジョンより】

表1 秋田市の人口の年次推移

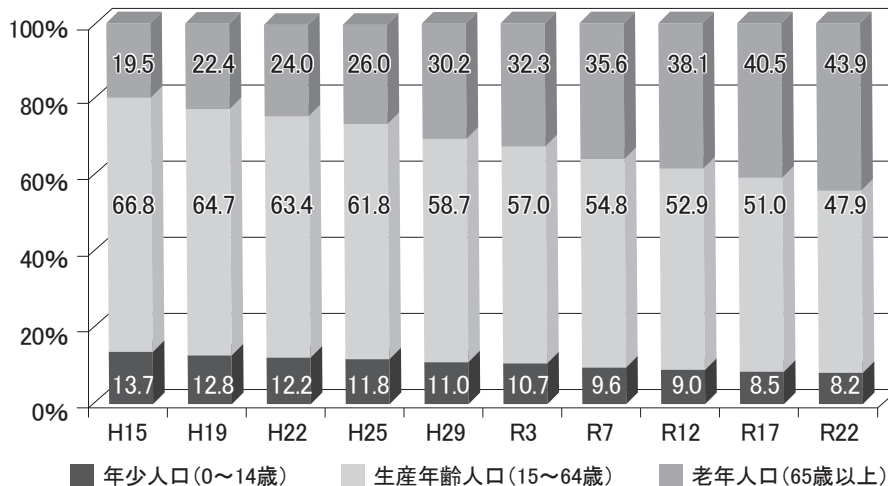
単位：人

	平成15年	平成19年	平成22年	平成25年	平成29年	令和3年	
総人口	318,046	329,452	323,600	320,154	311,178	305,586	
(再掲)	年少人口 (0～14歳)	43,465	42,230	39,574	37,820	33,692	32,102
	生産年齢人口 (15～64歳)	212,513	213,115	205,301	197,880	179,187	170,756
	老年人口 (65歳以上)	61,987	73,746	77,625	83,354	92,321	96,569
	年齢不詳	81	361	1,100	1,100	5,978	6,159

資料：秋田市年齢別・地区別人口 秋田市企画財政部情報統計課（各年10月1日現在）

※「年齢不詳」は、5年に1回行われる国勢調査の調査票に未記入や誤記入があり、年齢を正しく把握できなかったもの

グラフ1 年齢3区分別人口割合の年次推移（各年10月1日現在、令和7年以降は推計）



資料：秋田市年齢別・地区別人口 秋田市企画財政部情報統計課（各年10月1日現在）

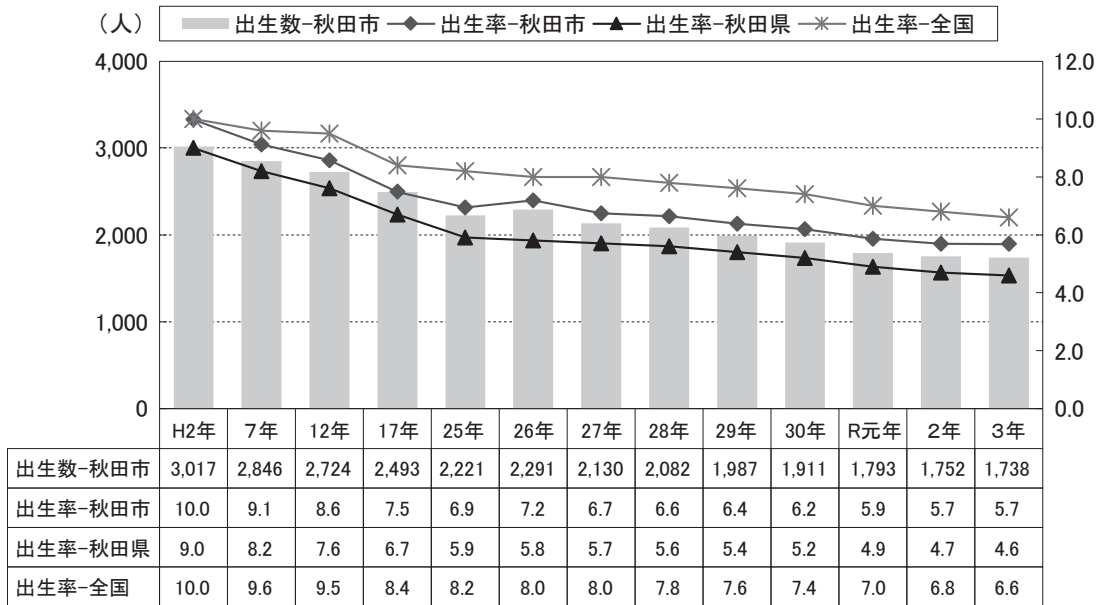
日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計） 国立社会保障・人口問題研究所

(2) 出生と死亡の動き

秋田市の出生数は、平成2年までは3千人を超えていましたが、平成29年に1,987人と2千人を割り、令和3年には1,738人まで減少しています。なお、出生率は、秋田県よりも高いものの、全国を下回っています。

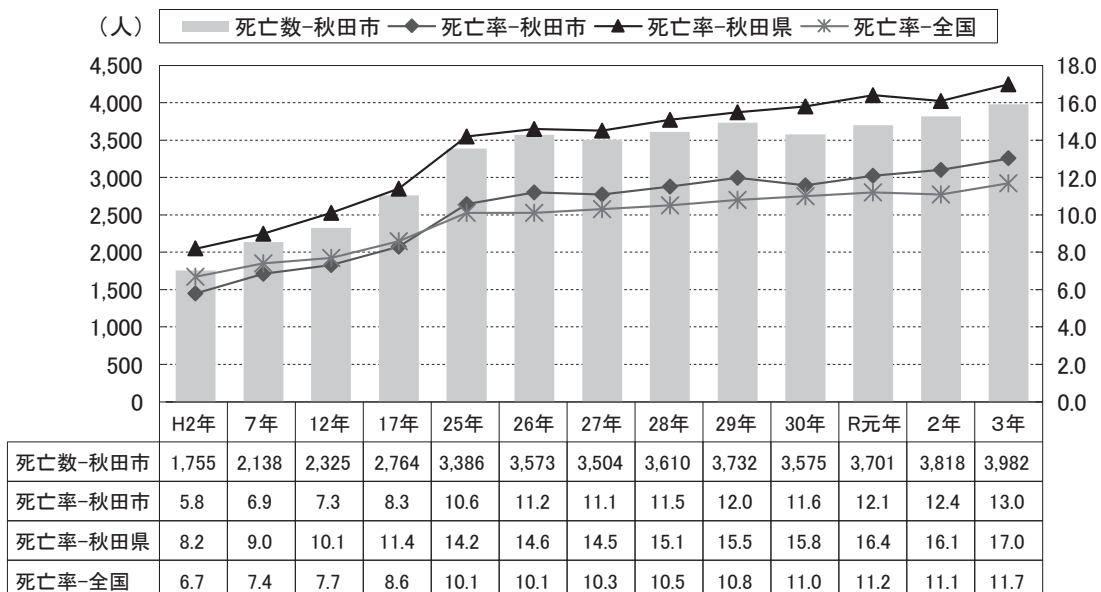
秋田市の死亡数は、昭和40年以降、増加を続けており、令和3年には3,982人となっています。なお死亡率は、秋田県よりも低く推移しているものの、平成18年以降、全国を上回っています。

グラフ2 出生数と出生率の年次推移（人口千対）



資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあまし

グラフ3 死亡数と死亡率の年次推移（人口千対）



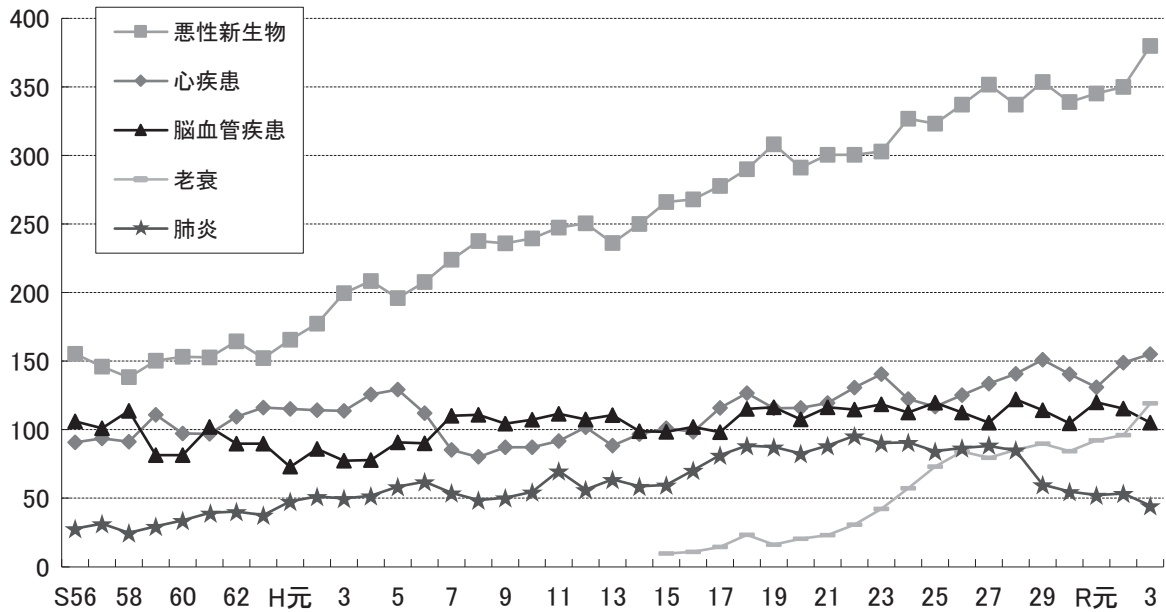
資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあまし

(3) 主要死因別死亡率の年次推移

令和3年の主な死因別の死亡率(人口10万対)をみると、悪性新生物379.9、心疾患155.1、老衰119.1、脳血管疾患105.0、肺炎44.5などとなっています。

年次推移をみると、悪性新生物は年々増加しており、昭和53年以降死因順位の第1位となっています。心疾患および脳血管疾患は、概ね横ばいで推移しています。

グラフ4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

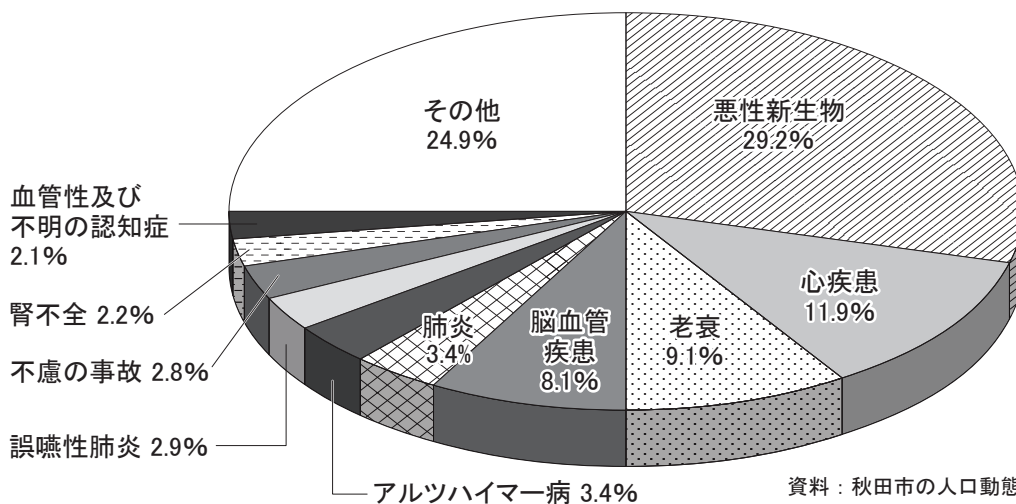


資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらし

(4) 主要死因別疾患割合

令和3年の秋田市における死亡数は3,982人で、死因の第1位が悪性新生物で1,161人、第2位が心疾患で474人、第3位が老衰で364人、第4位は脳血管疾患の321人となっています。生活習慣病とされる3つの死因(悪性新生物、心疾患、脳血管疾患)で、全死因の49.2%(割合は死因ごとに四捨五入)を占めています。

グラフ5 主要死因別疾患割合(令和3年)

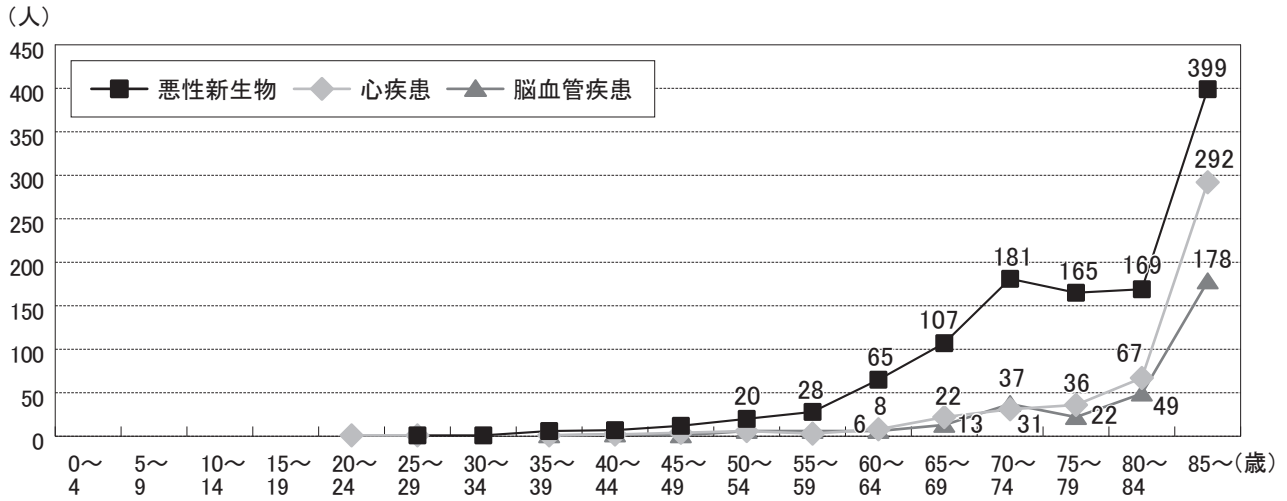


資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらし

(5) 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の年齢階級別死亡数

令和3年の秋田市における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の死亡数を年齢階級別にみると、心疾患と脳血管疾患は、60歳代前半から増え始め、80歳代後半以降は急増しています。悪性新生物は、40歳代後半から増え始め、80歳代後半以降に急増しています。

グラフ6 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の年齢階級別死亡数（令和3年）

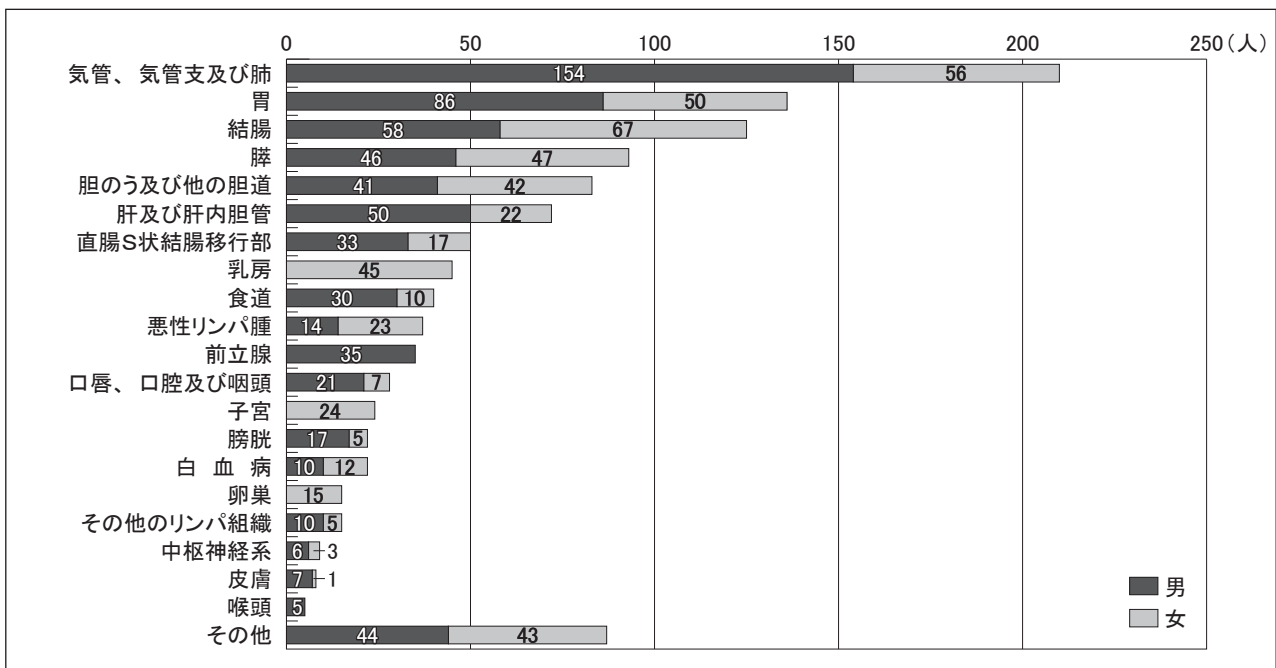


資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらし

(6) 性・部位別にみた悪性新生物死亡数

令和3年の秋田市における悪性新生物による死亡数を性・部位別にみると、肺がんが210人（男154人、女56人）と最も多く、全体の18.1%（男23.1%、女11.3%）を占めています。続いて胃がん136人（男86人、女50人）、結腸がん125人（男58人、女67人）などの順となっており、1位の肺がんとは10年間順位の変動がありません。

グラフ7 性・部位別にみた悪性新生物死亡数（令和3年）

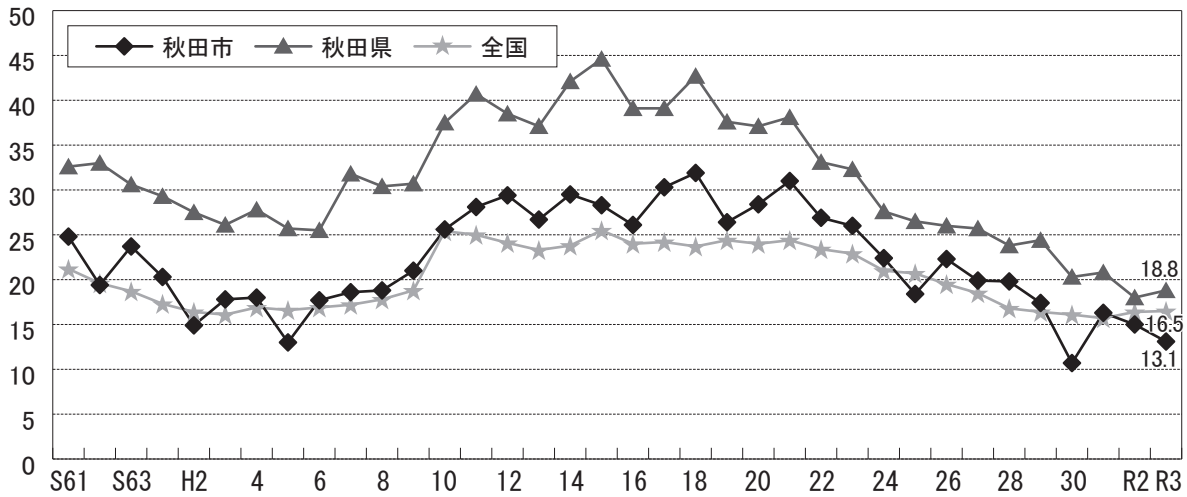


資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらし

(7) 自殺死亡率の年次推移

自殺死亡率の推移をみると、秋田市、秋田県、全国ともに平成7年以降上昇傾向にありましたが、平成22年以降は緩やかに低下しています。秋田市は、秋田県よりも低いものの全国よりは高く推移してきましたが、近年は全国との差は縮まる傾向にあります。

グラフ8 自殺死亡率（人口10万対）の年次推移

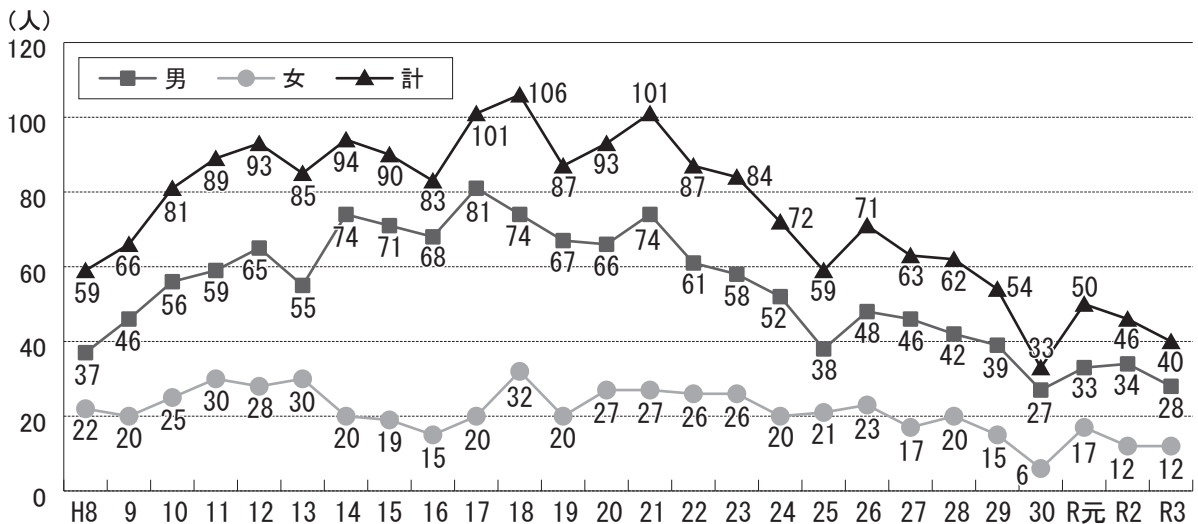


資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらまし

(8) 自殺死亡数の年次推移

秋田市における自殺死亡数の推移をみると、平成22年以降減少傾向が続いており、令和3年の自殺死亡数は40人となっています。自殺死亡数を男女別にみると、男性が女性を上回っており、令和3年では男性の自殺死亡数が全体の70.0%を占めています。

グラフ9 自殺死亡数の年次推移



資料：秋田市の人口動態 令和3年までのあらまし

(9) 国民健康保険被保険者における一人あたりの年齢別医療費の推移

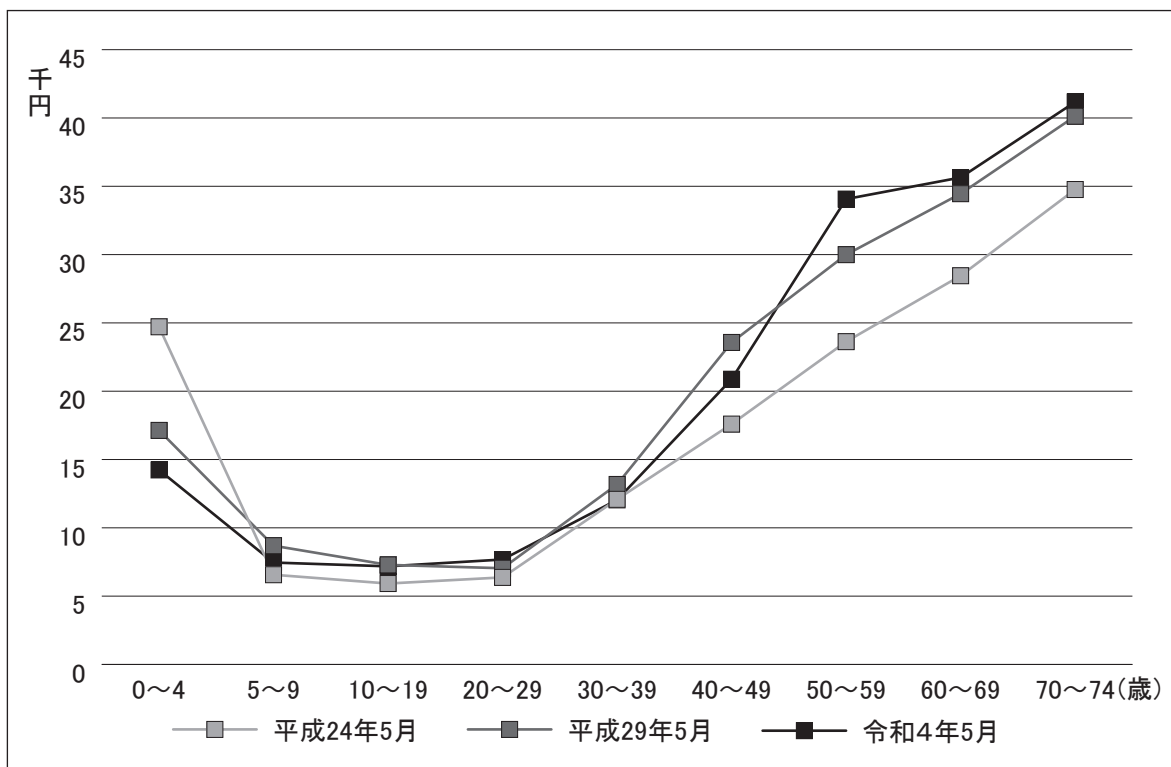
一人あたりの年齢別医療費は、30歳代以降の年齢層が増加しています。また、50歳代以降の医療費は年々増加しています。

表2 一人あたりの年齢別医療費の推移 単位:円

年 齢	平成 24 年 5 月	平成 29 年 5 月	令和 4 年 5 月
0 歳～4 歳	24,715	17,133	14,237
5 歳～9 歳	6,566	8,691	7,458
10 歳～19 歳	5,922	7,287	7,182
20 歳～29 歳	6,372	7,041	7,680
30 歳～39 歳	12,085	13,175	12,044
40 歳～49 歳	17,594	23,570	20,879
50 歳～59 歳	23,626	29,994	34,064
60 歳～69 歳	28,452	34,457	35,643
70 歳～74 歳	34,763	40,128	41,171

資料：秋田県国民健康保険団体連合会統計資料から秋田市分を集計

グラフ10 一人あたりの年齢別医療費の推移



資料：秋田県国民健康保険団体連合会統計資料から秋田市分を集計

(10) 国民健康保険における生活習慣病の状況

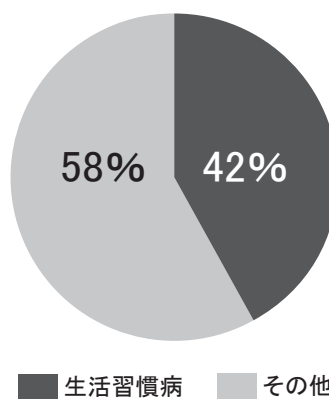
疾病分類[※]にみると、生活習慣病に関連する循環器系・内分泌系・消化器系疾患の件数は全体の42%となっています。また、疾病分類別の医療費のうち、それら3つの疾病が占める医療費の割合は、全体の30%となっています。

表3 疾病分類(19分類)による件数(令和4年5月診療分)

	疾病名	件数
1位	循環器系	8,063
2位	内分泌系	7,154
3位	筋骨格系	5,393
4位	眼疾患	4,087
5位	消化器系	3,782
6位	精神障害系	2,762
7位	呼吸器系	2,564
8位	皮膚疾患	2,236
9位	神経系	2,168
10位	腎尿路生殖器系	1,908
11位以下	上記以外の疾患	4,625
	合計	44,742

グラフ11

疾病分類(19分類)による件数のうち生活習慣病の割合(令和4年5月診療分)



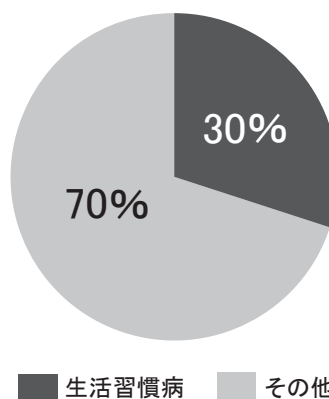
資料：秋田県国民健康保険団体連合会統計資料から秋田市分を集計

表4 疾病分類(19分類)による医療費(令和4年5月診療分)

	疾病名	費用額(円)
1位	新生物<腫瘍>	342,672,150
2位	循環器系	252,235,040
3位	精神障害	154,861,230
4位	内分泌系	152,144,520
5位	筋骨格系	151,405,050
6位	腎尿路生殖器系	141,563,270
7位	神経系	114,748,140
8位	消化器系	113,775,850
9位	呼吸器系	85,482,200
10位	眼疾患	71,209,850
11位以下	上記以外の疾患	175,383,540
	合計	1,755,480,840

グラフ12

疾病分類(19分類)による医療費のうち生活習慣病の割合(令和4年5月診療分)



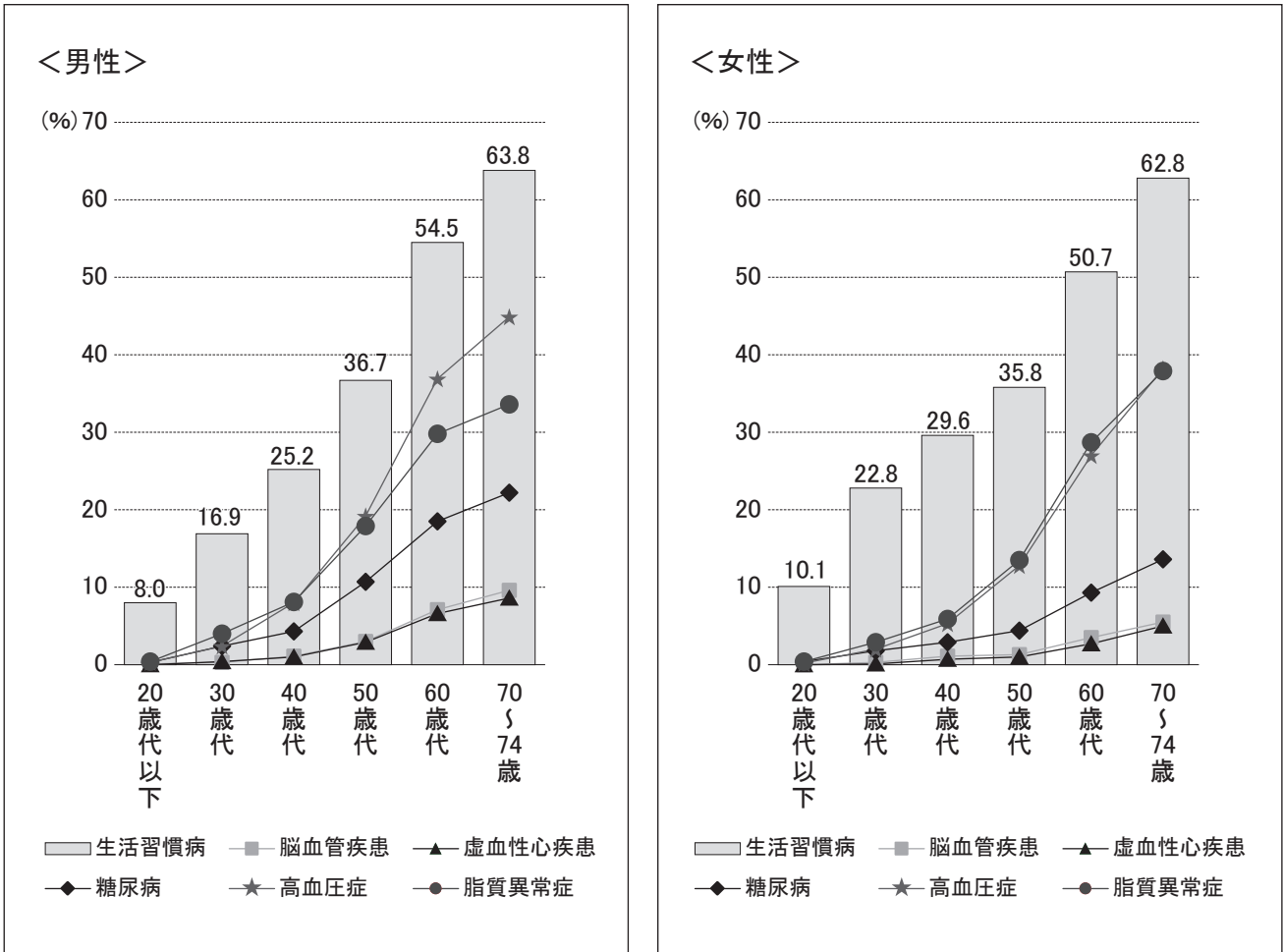
資料：秋田県国民健康保険団体連合会統計資料から秋田市分を集計

※ 社会保険表章による疾病分類表(119項目)から、大分類である下記の19分類を集計

- 1 感染症及び寄生虫症 2 新生物<腫瘍> 3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 4 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 5 精神及び行動の障害 6 神経系の疾患 7 眼及び付属器の疾患 8 耳及び乳様突起の疾患 9 循環器系の疾患
- 10 呼吸器系の疾患 11 消化器系の疾患 12 皮膚及び皮下組織の疾患 13 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 14 腎尿路生殖器系の疾患 15 妊娠、分娩及び産じょく 16 周産期に発生した病態 17 先天奇形、変形及び染色体異常
- 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響

生活習慣病の代表的なもの(高血圧症、脂質異常症、糖尿病、脳血管疾患、虚血性心疾患)の件数は、いずれの疾患でも年齢が上がるごとに割合が上昇しています。

グラフ13 生活習慣病の年齢別件数の割合 男性・女性(令和4年5月診療分)



資料：秋田県国民健康保険団体連合会統計資料から秋田市分を集計

(11) 介護保険 要介護(要支援)認定者数

高齢化に伴い、要支援・要介護認定者数は、増加傾向にあります。

表5 要介護(要支援)認定者数

年度	要介護度							認定者数 合計	第2号掲載 (40歳～64歳)
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
平成29年度	2,788	2,410	4,425	3,158	2,823	2,115	1,593	19,312	427
平成30年度	2,921	2,576	4,408	3,264	2,898	2,185	1,497	19,749	393
令和元年度	2,812	2,483	4,468	3,318	2,915	2,141	1,511	19,648	377
令和2年度	3,044	2,444	4,667	3,300	3,029	2,238	1,443	20,165	372
令和3年度	3,033	2,419	4,770	3,252	3,007	2,221	1,465	20,167	365

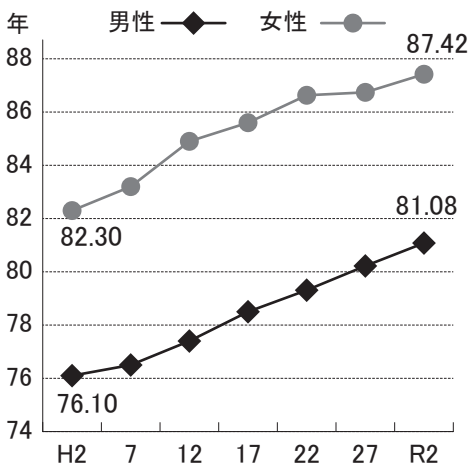
資料：令和4年度版 秋田市福祉の概要

(12) 秋田市の平均寿命・健康寿命

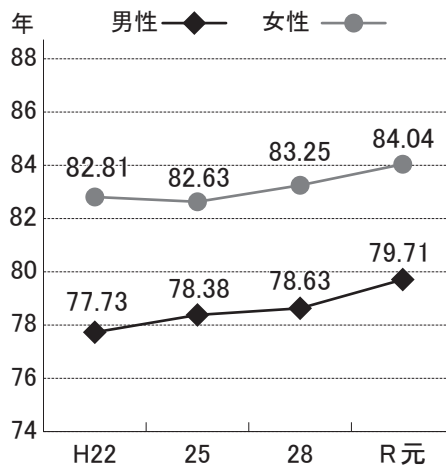
日本人の平均寿命は年々延伸しています。その傾向は秋田市も同様となっており、秋田市の平均寿命は、平成2年と令和2年を比較すると、男性は76.10年から81.08年へと4.98年、女性は82.30年から87.42年へと5.12年延びています。

健康寿命「日常生活が自立している期間の平均」も延伸しています。秋田市の健康寿命は、平成22年と令和元年を比較すると、男性は77.73年から79.71年へと1.98年、女性は82.81年から84.04年へと1.23年延びています。

グラフ14 平均寿命の推移



グラフ15 健康寿命の推移



※厚生労働省科学研究「健康寿命の算定プログラム」に基づき算定

(参考) 国・県の平均寿命

単位：年

	平成2年		平成27年		令和2年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
国	75.92	81.90	80.75	86.99	81.56	87.71
県	75.29	81.80	79.51	86.38	80.48	87.10

資料：厚生労働省 完全生命表（5年毎に公表）

(参考) 国・県の健康寿命

単位：年

	平成22年		平成25年		平成28年		令和元年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
国	70.42	73.62	71.19	74.21	72.14	74.79	72.68	75.38
県	70.46	73.99	70.71	75.43	71.21	74.53	72.61	76.00

資料：厚生労働省 厚生科学審議会 健康日本21（第二次）推進専門委員会資料

※秋田市と国・県では、平均寿命・健康寿命の算定に用いるデータが異なるため、値を比較することができない。

秋田市：介護保険における「要介護度2～5」を「不健康」とする（該当年10月審査分）。

国・県：国民生活基礎調査において「健康上の問題で日常生活に何らかの影響がある」と答えた人を「不健康」とする。

第2節 意識調査からみた市民の健康

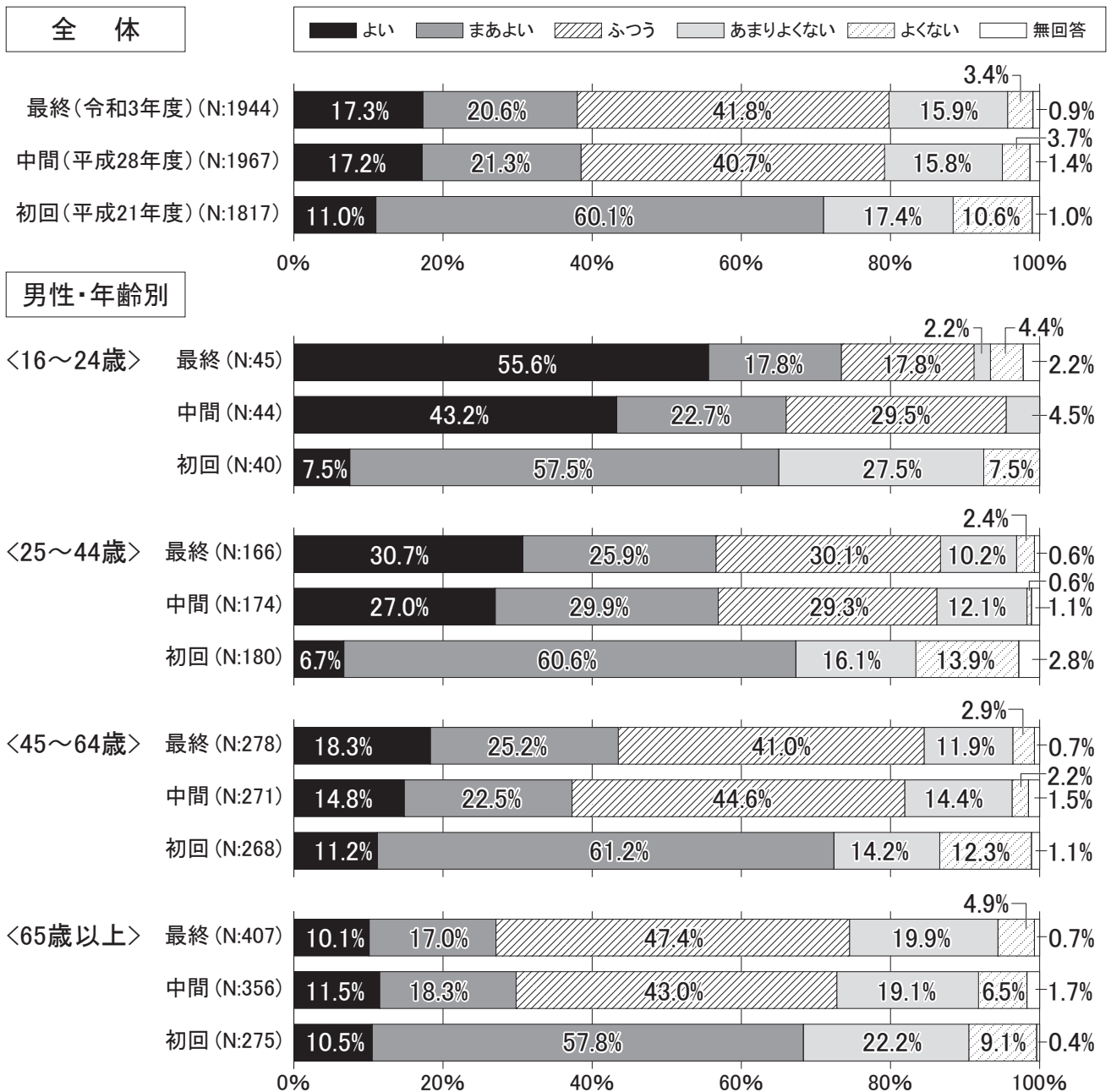
(1) 現在の健康状態について

健康意識の構成割合をみると、現在の健康状態について「よい」又は「まあよい」と回答した割合は37.9%、「ふつう」も含めた割合は79.7%であり、初回（平成21年度）から8.6ポイント上昇しました。

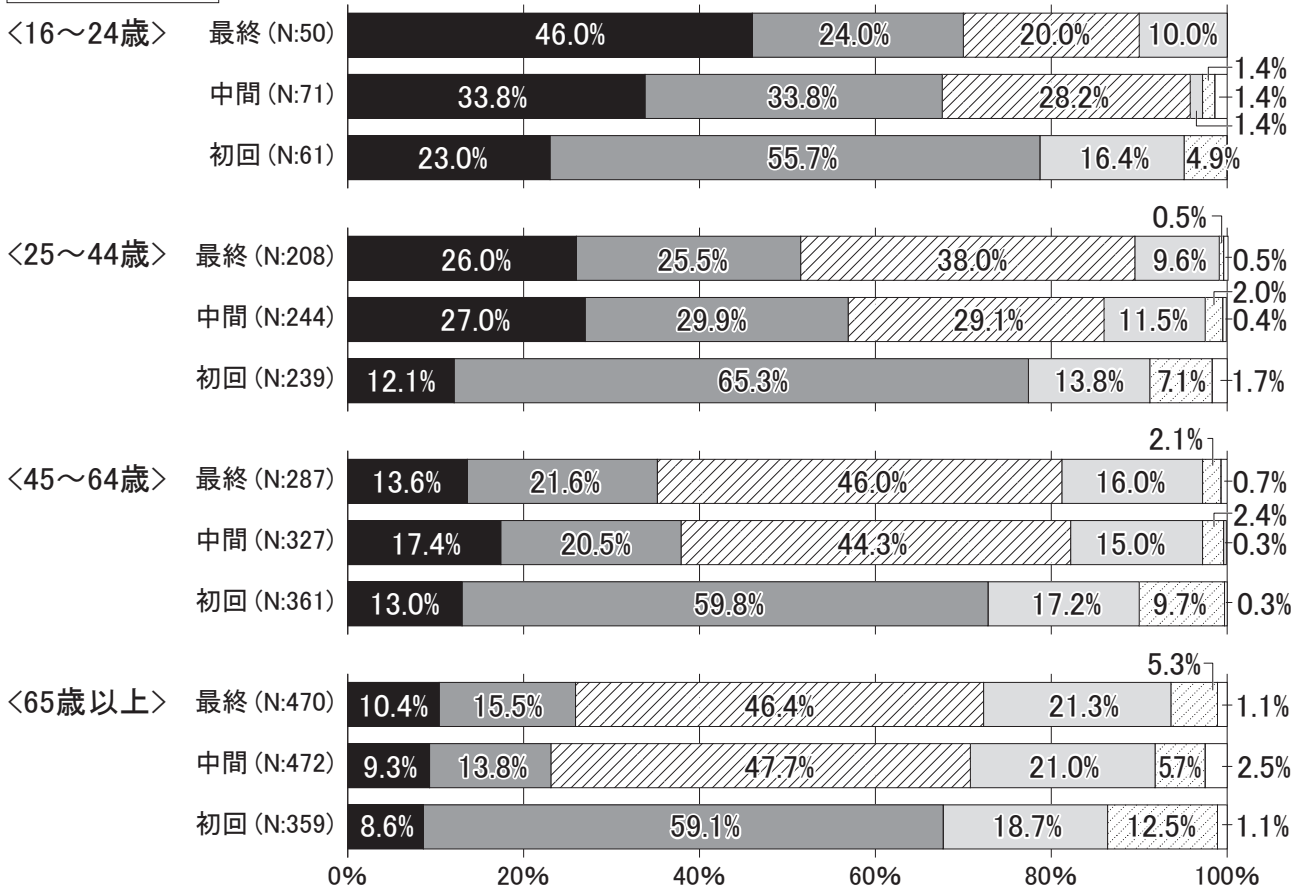
男女年齢階層別にみると、男女ともに「16～24歳」「25～44歳」で健康状態が「よい」という回答の割合が初回（平成21年度）から増加しています。

※令和3、平成28、平成21年度市民健康意識調査（16歳以上）の集計結果

初回（平成21年度）は「ふつう」の選択肢がなく、「どちらかといえば健康」を「まあよい」と読み替えて集計



女性・年齢別

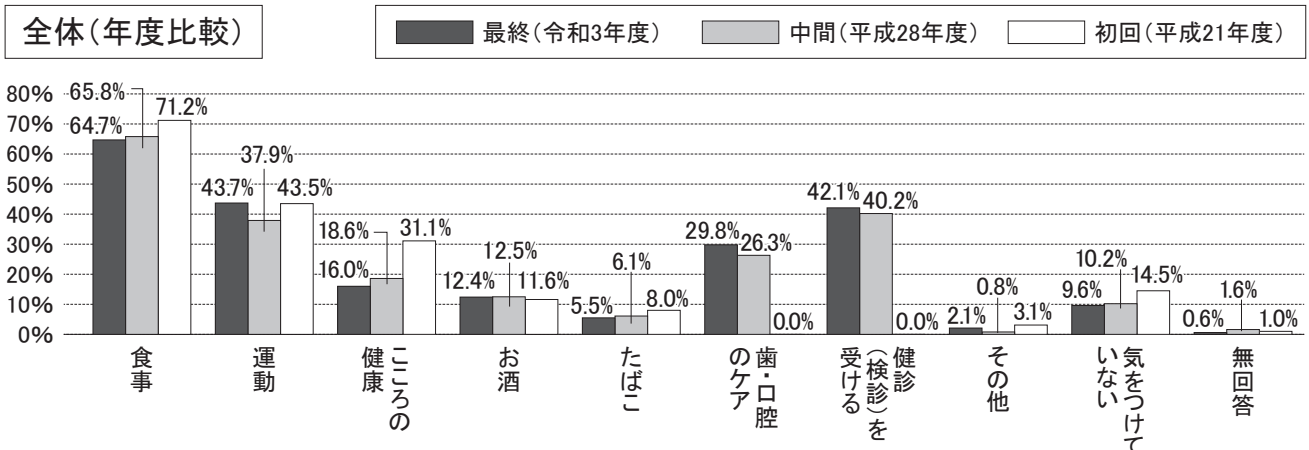


(2) 普段健康のために気をつけていること

「食事」と回答した割合が64.7%と最も多く、以下、「運動」43.7%、「健診（検診）を受ける」42.1%、「歯・口腔のケア」29.8%、「こころの健康」16.0%、「お酒」12.4%、「たばこ」5.5%の順となっています。

中間と比べ、運動、歯・口腔のケア、健診（検診）を受ける人の割合が高くなっており、普段健康に「気をつけていない」と回答した人の割合は、初回が14.5%、中間が10.2%、最終が9.6%と減少しています。

全体(年度比較)



※令和3、平成28、平成21年度市民健康意識調査（16歳以上）の集計結果

※「歯・口腔のケア」「健診（検診）を受ける」の選択肢は、平成28年度の調査から追加